

絵本であそび隊！

C班

福井県立大学 岡本夏季
福井工業大学 磯邊明香里
仁愛女子短期大学 栗岩裕美

現状・課題

文化芸術の担い手になりえる子どもたちの文化芸術体験の場が少ない
すべて画面の中で完結させてしまう(体験した「気になってしまっている」)

実際にもものに触れて、経験する場面が減少している

→そんな場を用意する必要がある

家にこもりがちになるのでイベントがあるとうれしい

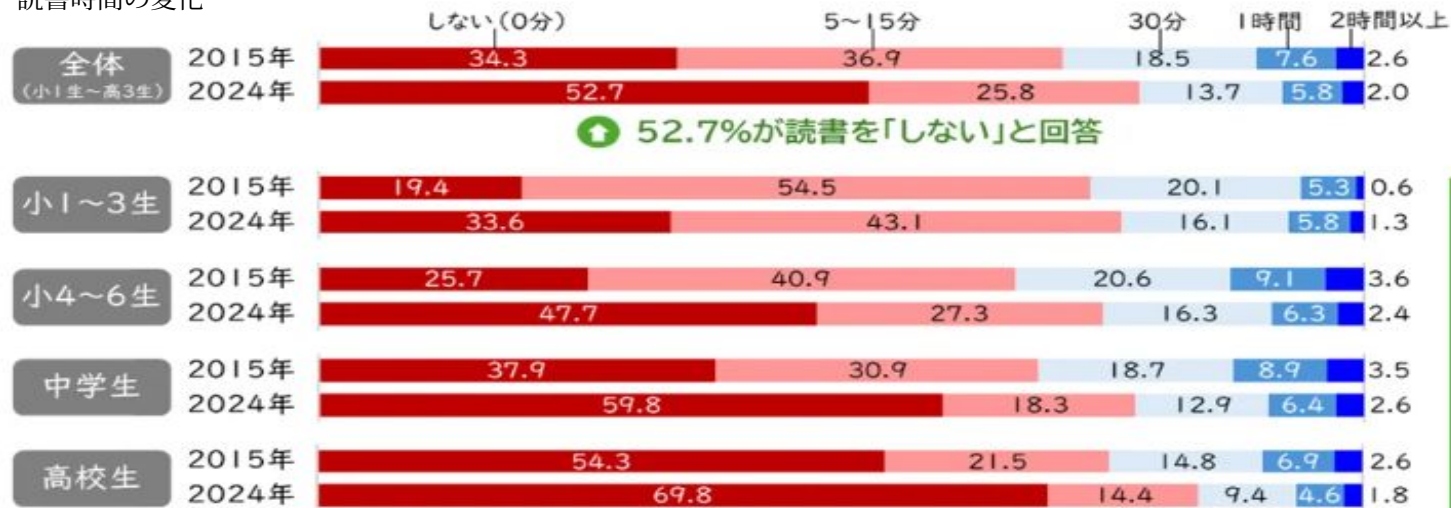


現状・課題

❖ 本に関心がない子どもが10年前と比べ、1.5倍に

→スマホ時間の増加、保護者の働きかけが少ない

読書時間の変化



📈 52.7%が読書を「しない」と回答

学年が上がるとともに「しない」割合は増加

出典：ベネッセ教育総合研究所「子どもの生活と学びに関する親子調査」

現状・課題

福井は、かこさとしさんという絵本作家の出身地！

これを活かして文化活動にうまく結び付けられないか...？



絵本のイベントがあれば参加したいですか？

絵本のイベントにはとても興味がある。昔の絵本や親世代にも馴染みがある絵本なら親子で参加したい



インタビュー

1. 地域の図書館の利用 絵本との関わりは減っていない 保育園でも絵本の読み聞かせがある。スマホとかタブレットでyou tubeご飯を作る時間などの隙間時間はyou tubeの時間になりがち
2. 親も子どもも昔の絵本でなら親子で参加したい 絵本のイベントには興味がある パン泥棒シリーズ、大きなかぶ(親世代)今の子たちの世代と親世代をターゲットにしたなにか
3. 絵本のキャラクターごっこ ごっこあそび おおきなかぶの登場人物になりきる
4. 家にこもりがちになるのでイベントがあるとうれしい
5. 絵本が好きな家庭は親が絵本好き 会話になる 親子の会話が増える キャラクター
○ 絵本もメディア 絵本のキャラクターも推し 読み聞かせのyoutube 世界がひろがる 新しい絵本との出会い 文字との関わりを幼少期から

インタビューの続き

絵本のイベントがあれば参加したいですか？

絵本のイベントにはとても興味がある。昔の絵本や親世代にも馴染みがある絵本なら親子で参加したい



目指す姿

それぞれの豊かさに出会い、自分らしく育む。

みんなが表現・参加できる機会を増やす！

誰もが文化芸術に親しめる環境の整備

子ども向け文化芸術体験機会の定期的な提供

子どもたちの文化活動の入口になる

解決策/事業

「絵本であそび隊！」

内容	絵本と芸術をかけあわせることで子どもをターゲットにした芸術体験の場を提供する
ターゲット	未就学児
回数	年6回(2か月に1回程度)
場所	エルパ、ベル、エンゼルランド、図書館、美術館等
周知方法	幼稚園、保育園を通し周知させる、SNS
運営	講師 (絵本作家・絵本館の人・学生ボランティア)

具体的な内容

第1回 ～ちぎって広げる絵本のセカイ～

❖ 貼り絵で自分なりに絵本に関するものを作ってもらおう

使用するもの 画用紙、のり、色紙、越前和紙

例:かこさとし作「カラスのパン屋さん」を使って

- ・絵本の表紙
- ・お店にやってくる様々な鳥たち
- ・「こんなパンがお店にあったらなあ…」 etc...



具体的な内容

第2回 ～絵本×音楽でひろがるセカイ～

❖ 絵本のシーンにあった音を奏でてもらう

身近なもの(ペットボトル、布、紙、ビーズ、木の棒、空き缶etc)を使って即興で楽器を作り、音を再現

例:かこさとし作「かわ」

川に水が流れる音、雨の音、

自分たちが住んでいる町の生活音

ダムから勢いよく放水される音 など...



成果・効果

子どもたちの文化芸術に対するハードルが下がる



保護者の意識を変える



文化活動を体験してもらうことで次世代の育成に繋がる

